

特集 「平成30年度校外教育協会委嘱研究」



平成30年度 第53回「郷土を描く児童生徒美術展」知事賞受賞作品

『いろいろな古生物の化石が見つかる地そう』
川口市立元郷南小学校 3年(当時) 加登見 紹運 さん

(作品のみどころ)
様々な化石を白クレヨンでかき、にじみの技法をつかいながら思いをふくらませていることがよく伝わります。

— 主 な 内 容 —

- ・会長あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (2)
- ・令和元年度通常総会、校外教育助成事業・・・・・・・・・・・・ (3)
- ・平成30年度校外教育協会委嘱研究の概要・・・・・・・・・・・・ (4～7)
- ・第54回「郷土を描く児童生徒美術展」・・・・・・・・・・・・ (8)



会員の皆様へ

埼玉県校外教育協会会長 村上 博俊



絶妙な「水」と「雑巾」のように

「皆さん、かんぱんは!」学校教育・校外教育の看板は、会員の皆さんです!!
そして埼玉の教育の看板は、児童生徒です。次の世代を担うのですから。

この校外教育協会の会員の皆様は県内の市町村長及び公私立の小中学校長という極めて教育の発展に重要な役目を持つ方々であります。お力を借りて、子供たちの未来を創っていきたくと存じます。

さて、表題の「水」と「雑巾」の存在は私の理想とする存在。子供たちのために、社会のために、そのようになりたいと思う。

「水」といえば、まず低いところに向かっていく。そして、新しいきれいなタオルにも、古く擦り切れた雑巾にも同じように、別け隔てなく沁みわたる。自分の存在を自己主張もせず自分の形を相手に合わせ、あまりにも自然に当たり前存在する。雑巾を洗った後の汚れた水でも、植木にまけばきれいな水と変わらぬ潤いをもたらす。

「雑巾」は、「雑巾」になる前はタオルだったのかTシャツだったのか・・・。

本来の使命を果たした後、更なる新たな使命を持ち身の回りを磨いていく。自分がボロボロになって力尽きるまで使命を全うする存在の雑巾は偉大である。水の力を借りて、自分の役目を高め全うする。自分を犠牲にして周りを輝かせる。

退職後もさらに児童生徒のためになろうと右往左往している自分に重ねてみる。そのような働きができているのだろうか。

埼玉県校外教育協会の看板事業の一つに郷土を描く児童生徒美術展がある。

例年、会場では展示された児童生徒を称えようと家族や親戚、学校の先生までもが集まり、子供たちが輝く場が会場のいたるところに溢れる。大人が「水」のように子どもたちの周りに集まり、潤い、環境を整え、子どもたちを輝かせるため「雑巾」のように自分を犠牲にしながら周りを引き立たせている。

このような精神が児童生徒を、また自分をも成長させるものと信じている。

埼玉を愛する、ひいては日本を、人・ものを愛する児童生徒の育成のための「水」と「雑巾」の役割を担いたい。

そういえば、絵を描くときの筆の絵の具の調整に「水」と「雑巾」の存在は欠かせない。11月30日、12月1日に本庄東小学校で行われる「郷土を描く美術展」では、すべての作品のなかに絶妙のバランスが隠されている。





令和元年度 通常総会



令和元年6月13日（木）に共済会館第1ホールにて令和元年度通常総会を開催いたしました。当日は、平成30年度決算などの2議案が提案され、全てが原案のとおり承認されました。

通常総会に引き続いて、令和元年度の校外教育研究委嘱校への委嘱状交付、平成30年度の研究委嘱校による研究成果の紹介及び（一財）総合初等教育研究所参与北俊夫氏による特別講演「伝統・文化に関する教育の考え方・進め方」を実施しました。

研究委嘱校による研究の概要については、4～7ページに掲載していますので、御覧ください。



《令和元年度校外教育研究委嘱校及びテーマ》

学校名	テーマ
さいたま市立栄小学校	地域に根ざし地域の特色を生かした体験活動による生き生きと学ぶ児童の育成
鶴ヶ島市立藤小学校	地域を愛し、地域とともにより良い自分を目指して成長する児童の育成
春日部市立豊春中学校	自然豊かな中での体験活動を通し、勤労の尊さと共に、自主性を高め、感動しよう
新座市立第六中学校	地域や保護者との協働を通して自己有用感を高める～社会性の育成～



(新規事業)校外教育助成事業



当協会では、昨年度まで実施していた調査研究委員会による研究活動に代わる事業として、今年度から新たに、県内の児童・生徒の校外での生活の充実を図るため、放課後子供教室において、これまで充実した活動を展開し、かつ一層の充実を図ることを計画している団体に対し、活動に係る経費の一部を助成する事業を開始しました。

今年度は、6つの団体からの申請に対し、選考の結果、下記の3つの団体に助成することと決定しました。

本助成により、児童・生徒の校外での活動が一層充実することを期待しています。

《令和元年度校外教育助成対象団体》

助成対象団体	参加対象となる学校名
西小放課後子ども教室	北本市立西小学校
吉岡っ子ふれあいたいム	熊谷市立吉岡小学校
はつらつルーム	長瀨町立長瀨第一小学校、長瀨町立長瀨第二小学校

「豊かな体験活動に取り組むことから、地域社会に主体的に関わっていく児童の育成」

～ 豊かな体験活動を通して ～

委 嘱 校 本庄市立共和小学校

1 研究主題

本校は、本庄市の南側に位置し、周囲を山や畑に囲まれ、大変自然に恵まれた環境にある。また、親子で本校出身という家庭もあり、地域は学校の教育活動に大変好意的で協力をしてくれる。そこで、豊かな体験活動に取り組むことから、この共和地域に愛着をもち、地域の一員としての自覚を育んでいきたいと考え、本テーマを設定した。

2 本校の取組

(1) 学校（ファーム）農園の活用

- ・各学年の栽培計画による作物作り
(1年生・さつまいも/2年生・長ねぎ、玉ねぎ/
3年生・じゃがいも/4年生・白菜/5年生・米/6年生・大根)
- ・理科での観察活動
(3年生理科じゃがいも)



(2) 文化伝承的な活動

- ・外国語活動を通して日本の良さを知る活動
(本庄早稲田国際リサーチパークの協力による国際理解教室を実施/1・2・6年生で)
- ・1年生が昔遊びを通しての高齢者との交流をしている。
- ・3年生が蚕の飼育による繭作りと繭人形作りをしている。
- ・6年生が地域の獅子舞のお囃子を保存会の皆様に指導していただき、学校公開日に披露している。

(3) 豊富な生活体験を通して地域を知る活動

- ・2年生まち探検（公民館・駐在所等）・3年生まち探検（児玉町競進社、塙保己一記念館等）

(4) 環境教育

- ・5年生「川の応援団女掘川環境学習」（年2回）
- ・6年生風力発電教室（本庄早稲田国際リサーチパークの協力）
- ・アルミ缶回収（通年/児童会）

(5) 地域の施設との交流

- ・高齢者施設との交流（年5回/4年生総合的な学習・福祉）
- ・幼稚園、保育園との交流（運動会招待・新一年生体験入学）



3 成果と課題

(1) 成果

- ・学年間活動である校菜園への取り組み等を通して、地域の方との交流を図ることができた。
- ・地域の方との交流が図れたことで、「共和小学校っていいところだね。」や「こんなに野菜がとれるなんてすごいね。」等の感想をいただくことにより、自分たちの住む本庄市児玉町共和地区に愛着をもたせることができた。
- ・野菜の栽培活動を通して、野菜の成長の様子等から命の大切さに気付くことができた。

(2) 課題

現在の学校運営協議会、学校応援団の方々には学校の教育活動に対して大変好意的で理解があり、積極的に協力をしてくれている。しかし、後継者がいないということで、今後、これまでの活動を継続できるかが課題である。

「関わりあい 学びあい 高めあい」 ～ 自己肯定感・自己有用感の育成 ～

委 嘱 校 八潮市立中川小学校

1 研究主題

本校の地域は、三世代の家庭の割合が多く、古くからの伝統や文化が大切にされている。家庭・地域の学校教育に対する期待は大きく、その分協力的である。反面、児童は限られた範囲での関わりになりやすく、決められたことはしっかりとこなすが、新たなことへのチャレンジ精神に欠ける部分がある。

そこで、地域の「人・もの・こと」と豊かに関わることに視点を当てた校外教育を研究することで、一人一人の豊かな学びを推進し、互いを高めあうことのできる児童を育成するために本研究主題を設定した。

2 本校の取組

「つなぐ」を活動のキーワードとし、地域行事の参加や地域と学校との協育活動を通して、地域とより豊かに「関わりあい 学びあい 高めあい」を深めることで、児童の自己肯定感・自己有用感を醸成する。

(1) 地域の伝統文化を「つなぐ」

- ・運動会での特別種目「八潮音頭」

飛鳥太鼓保存会による和太鼓実演に合わせて保護者・地域の方々・児童と一緒に踊ることで一体感を醸成

(2) 地域の地場産業を「つなぐ」

- ・八潮名産「小松菜」の栽培・収穫
JAの協力を得て「種まきー収穫」の体験
- ・「藍染め注染」の伝統技術
実際に体験をすることで技術の伝承を実感



(3) 小・中・高を「つなぐ」

- ・合同学校保健委員会

小学生・中学生・高校生が主体となって保護者とともに議論

(4) 防災体制を「つなぐ」

- ・本校独自の地域防災体制

学校・家庭・地域合同防災訓練「6つの訓練体験」

放水

土嚢積み

水消火器

起震車

バケツリレー

煙体験



(5) 未来へ「つなぐ」

- ・6年生「命の授業」
命を授かることの意義
- ・6年生「夢の実現にむけて」
地域のゲストティーチャーを迎えてワールドカフェ
考え・議論する道徳の授業を保護者・地域に公開



3 成果と課題

「つなぐ」をキーワードに「関わりあい」を大切にしながら活動することで、互いに意欲的に「学びあい」がなされた。この「学びあい」の過程が自己存在感や自己有用感を「高めあう」ことにつながった。

今後は、さらによりよい「関わりあい」を研究することでテーマの実現に迫っていく。

「地域についての学びを起点に、未来への希望と想いを抱く生徒の育成」

～ 希望を南十字につなぎ、未来への煌めきを持とう！ ～

委 嘱 校 さいたま市立南浦和中学校

1 研究主題

本校は、さいたま市南区の都市部と郊外の間位置し、どちらかというと地域的な特徴や帰属意識をもち難い、新興住宅地の多い辻地区に立地しており、学習に対する保護者の意識は高いが、自分の考えを主張することや、お互いの意見を伝え合い、考えを深めることが苦手な生徒が多い点や、思いやりの心を持ち、相手の気持ちを忖度できる生徒がまだまだ少ないなどの傾向がある。

そこで、以下の3点、

- ① 計画的に生徒の成長を促すプログラムを、3年間を見通して、しっかりと定めること。
- ② 十分な成果をあげるために、学びの場を校内だけに留めず、広く校外にも目を向けて、より良い学習の機会を得ること。
- ③ 3年間の学習に真の価値を持たせ、生涯にわたって学び続けるきっかけとするために、「地域と自分」、「地域で生きる自分」という視点を持たせること。

を踏まえて、3年間の学年経営を展開し、「主体的・自立的で、意欲的に進路実現に取り組む、たくましい3年生」、「世界や日本のビジョンまでを自分なりに見渡せる、未来への希望と想いをもつ視野の広い3年生」の育成を目標とした。

2 本校の取組

本研究では、生徒の思考や意識、想いを育てる場として、「キャリア教育」と「平和教育（特に広島を中心として）」に、特に力点を置く指導を実践した。

(1) 1年生時の実践

市主催の「あんとれすくーる」に参加し、企業の役割や流通、商品開発や販売について、地元企業の方々の協力をいただきながら学び、これと地域学習の成果を組み合わせ、「地域振興のための商品開発」を行い、成果発表会（販売会）を地域公民館で開催した。そして、1年間の取組成果をまとめ、クラス内、学年内（保護者も参加）の発表会を行い成果と情報の共有化を図った。

(2) 2年生時の実践

「平和学習」を中心に年間の学年の展開を企画し、年度当初には、年度のシンボライズな行事として、「埼玉県広島被爆者協議会」の方をお招きし、「被爆体験講演会」を開催した。その後、広島や原子爆弾に関する調べ学習を展開し、一人ひとりに、「広島平和新聞」の作成を指導した。新聞完成後には、クラス内と学年内（保護者も参加）の発表会をおこない、成果と情報の共有化を目指した。

(3) 3年生時の実践

「広島修学旅行」を実施し、実際に広島の街を訪れ、原爆ドームや平和資料館を見学し、そして現地のガイドの方々からお話をお伺いした体験をもとに、「どんなことが学べたのか」、「学べたことを今後はどう生かしていくのか」を特別活動の時間を利用して追求し、生徒個々の、「今後の人生に、この修学旅行を生かすための目標」を定めた。



3 成果と課題

生徒に、必要に応じてメモを取りながら話を聞く姿勢の定着や、物事に真剣に取り組む意識の高まりを感じることができた。また、地域を学習した目を基本としながら、広島街との類似点・相違点を探り、広島街で起こった悲劇をより深く受け止め、今後の自分自身の生き方に生かす姿勢を育てることができたことが成果である。

今回学んだことを、如何に日々の生活に反映させるか。学びから得たものをもとに、日常レベルでの課題も設定させたが、新鮮な気持ちを失わず、意欲を保持しながらそれらに取組ませることが今後の課題である。

「杉山城跡整備活動による郷土を誇れる生徒の育成」

委 嘱 校 嵐山町立玉ノ岡中学校

1 研究主題

(1) 研究のねらい

杉山城跡の学習会や整備・保全活動への参加を通して歴史的価値や保存会をはじめとする郷土を大切に
地域の人々の想いに触れることにより、郷土を愛する心の涵養を図る。

(2) 杉山城跡整備活動の歴史と整備・保全活動

杉山城は、戦国時代に築城された城であり、良好な保存状態や築城技術の高さが評価され、平成20年度に
「国の史跡」に指定された史跡である。遠方からや観光バスで団体の見学者が訪れるなど、その知名度が上が
っている。本校が、杉山城跡に隣接していることから、平成16年度より、総合的な学習の時間に奉仕活動の
一環として整備・保全活動に協力している。

2 本校の取組

(1) 生徒会主催による新入生対象の杉山城跡学習会

本校では、1年生が入学して直ぐに開かれる対面式で生徒会が主催となり、スライドを使って杉山城跡の整
備活動を紹介している。

地域の方と中学生が一緒に行っているこのボランティア活動が評判になっていること。杉山城が続百名城に
選出され、今では多くの見学者が杉山城跡を訪れるようになったこと。先輩たちが長い間続けてきた活動を、
自分たちも誇りを持って行っていること等を学んでいる。

(2) 嵐山町と杉山城跡保存会による杉山城跡学習会

毎年、1年生が嵐山町役場の職員と杉山城跡保存会の方から、杉山城の歴史
を学習している。知識だけでなく、地域の方々の杉山城に対する思いや地域の
子供たちへの願いなども学んでいる。

(3) 杉山城跡遊歩道整備活動

第1学年 ～ウッドチップ撒きによる遊歩道舗装～

遊歩道にウッドチップを撒くことにより、見学者が迷わずに杉山城跡を見学
できる。また、歩道と城跡の区別ができ、城跡が荒れずにきれいな状態を保て
ている。

(4) 杉山城景観整備活動

第2学年 ～竹林伐採による景観整備～

活動を始めた当初は、2・3年生合同で竹林伐採を行っていたが、竹林の伐
採が進んだので、2年前からは2年生だけで伐採作業を行っている。

(5) 整備活動を行った杉山城跡で連凧揚げ

1・2年生が合同で、毎年、杉山城跡で連凧揚げをしている。ひとりひとりが
凧にそれぞれの願いやメッセージ、絵を描き、全員の凧を糸で繋げて揚げて
いる。青空に天高く連凧が揚がった光景は圧巻である。



3 成果と課題

本校生徒へのアンケート結果によれば、杉山城跡の整備活動を、「ずっと続けていきたい・続けた方がよい」と
回答した割合は99%、嵐山町が「好き」「まあまあ好き」と回答した割合は88.2%、将来も嵐山町に「住み
たい」「住んでもよい」と回答した割合は72.9%であった。

自分たちが整備している杉山城跡に多くの見学者が訪れているのを肌で感じ、学校の近くにある史跡を整備す
る活動に誇りを持つようになったことはこの活動を継続している成果である。

今後、この活動を継続させていくためには、本校だけではなく、学区の小学校と連携して行っていくことや杉
山城跡でイベントを行うこと等新たな取組を考えていく必要がある。

第54回「郷土を描く児童生徒美術展」

趣 旨 「郷土を描く児童生徒美術展」は、児童生徒が郷土を描き、その作品による展覧会を実施することによって、郷土埼玉に対する理解と認識を深め、郷土愛の高揚を図ろうとするもので、「埼玉県芸術文化祭2019地域文化事業」として行うものです。

主 催 埼玉県校外教育協会 埼玉県
埼玉県教育委員会
埼玉県芸術文化祭実行委員会

～第53回美術展の作品から～

共 催 さいたま市教育委員会
埼玉県市町村教育委員会連合会
埼玉県美術教育連盟

期 日 中央展覧会
令和元年11月30日(土)～12月1日(日)
9時00分～16時30分
特選作品約1,010点(知事賞作品120点を含む。)を展示します。

受賞者名簿は校外教育協会のHPに11月上旬に公開する予定です。

会 場 本庄市立本庄東小学校
(本庄市日の出1-2-1)
【電車】
JR高崎線本庄駅から徒歩約10分



「夏の高徳神社」
鶴ヶ島市立藤中学校 1年(当時) 小田 森羅 さん

なお、関係者を除く一般の方への駐車場の開放は行いません。
御来場の際は、公共交通機関等の御利用をお願いします。

表 彰 優れた作品には、賞状を授与します。
特選作品約1,010点(知事賞作品120点を含む。)、入選作品約1万点。

なお、知事賞作品は、11月14日(木)に埼玉会館において表彰され、「画集 埼玉子どもの絵」に掲載されます。

H P [埼玉県 校外教育](#) で [検索](#)

すると協会のトップページから入れます。

